

AKAGI

ぐんまの留学生 第16号

友情 มิตรภาพ

主催：財団法人群馬県国際交流協会



群馬県留学生交流推進協議会

Gunma Regional Conference for Promotion of Students Exchange

AKAGI

ぐんまの留学生

目 次

1 卷頭言

卷頭言 群馬社会福祉大学学長 鈴木利定 1

2 寄稿

大切な出会い
共愛学園前橋国際大学国際社会学部3年
史 亜 薇 (中国) 2

チユーター活動を終えて
群馬大学工学部1年
川 野 恭 平 4

ウズベキスタンと日本
群馬大学社会情報学部研究生
ムスリモワ デイリドーラ (ウズベキスタン) 5

3 県内高等教育機関の近況 7

4 交流事業・支援事業 9

5 資料

「群馬県内留学生関係資料」 11

「全国留学生関係資料」 14

「群馬県留学生交流推進協議会関係資料」 17

巻頭言



群馬社会福祉大学

学長 鈴木 利定

本学園の祖である長尾左衛門景仲（1388－1463、後の入道昌賢）は、白井郷に聖堂を建て京の儒、藤原清範をして講筵を開き関東平野に文教の樹立をはかり、郷党の子弟を薰陶し儒教の教育に基づいた精神の涵養に重きを置いた。明治8年（1875）に昌賢中学校（旧制）と改め青年教育に熱意をそそぎ「質実剛健、敬愛、至誠」の三則であり、この慈教に根本思想の「忠恕」を加え四則とし我が学園の教育方針として大本の「仁」、並びにそれらを展開した「親義別序信」の五倫「仁義礼智信」の五常を踏まえた「礼」の実践、統合した仁愛の精神を建学の理念として人格陶冶とその発揚とした知行合一の身心教育を行わんとする。就中、学園の創立者の意志に基づき、「仁は人なり」は人間教育、情操教育の根幹である豊かな人間性をはぐくみ、21世紀の今日大きな変革の時代を迎へ、本大学では特に国際社会に対するリーダー育成を目指し「グローバル・イングリッシュ」の導入で双方向での効果的な学習を行い、又各国の大連携により「インターナショナル」による国際社会に貢献する意欲のある自立した人材育成を踏まえ「国際理解・国際交流」を促進する学習会を開催し、イラン・マレーシアの国の留学生を招き他国との文化交流、習慣、風習を学ぶ交流会を行った。結果、学生一人一人が世界各国に対して共に学び、共に生きる共生の精神を育てながら友情、思いやり、自立心、意欲、達成感を自ら切り拓く力を育み資質に点火、感化したようである。今後は年間を通じ計画的に十分な時間配分で、国際性において興味関心を引き出すだけでなく学生自身が気づいてそれを学び、理解し、どうすればいいのかを考えることであり、国際交流を総合的学習とした位置づけを有効活用し、本学の教育プログラムとして位置づけ定着させるべきであると考えられる。

本学は発祥以来、永い伝統の「世道人心に裨益する」という本学の建学理念の実現を目指し、福祉教育においても国際交流、特に欧米諸国及び中国、アジア、インド等との交流を重視し、国際的感覚を身につけた教育を行い国際福祉の総合大学を目指している次第である。

参考

今回国際交流の授業構成についての学生の意見

授業に対する理解度 10点満点 (平均9.04)

授業に対する興味度 10点満点 (平均9.5)

授業に対する満足度 10点満点 (平均9.38)



大切な出会い

共愛学園前橋国際大学国際社会学部3年

史 亜 薇 (中国)

自分が日本に来て感じた「大切な出会い」についてお話ししたいと思います。

私が、留学を考えたのは高校生の時でした。漠然とした希望でしたが、生まれ育った田舎を出て、様々な文化・人々・考え方と触れてみたいという思いから、日本に留学したいと思うようになりました。そんな曖昧な私は、「家から離れたら、何かあっても、自分ひとりで解決することになり大変だ。しかも、留学は勉強しながら、社会と接触することで、そんな簡単なことではない。よく考えなさい。」と親に言われました。しかし、その時はどうしてもどこかに大きく飛び出して、チャレンジしてみたいという気持ちが強く、何とか親を説得し、当時通っていた短期大学を終了後に、強行突破で日本に飛び立ちました。

はじめは、中国で学んでいた日本語が全くと言っていいほど通じなく、不安と希望を抱えてのスタートとなりました。また、中国では皆ゆっくりと生活をしていたのですが、日本では時計を気にしながらの毎日で、日本人のように早く歩いたり、追い越していく生活はしたことがありませんでした。この習慣は、非常に大きい戸惑いを感じ、慣れるまで大変でした。

学校では、専門知識についての自信は持っていましたが、勉強以外のことは、ほとんど分かりませんでした。親の言葉がフツと思い出され、自分で解決しなくてはいけないという思いが強くなり、気持ちが空回りしていました。学校の友達と仲間になかなか馴染めなく、「人と人が分かり合えない社会に、一人でどう頑張ればいいのか?」と、悩んでいました。故郷を懐かしく感じ、最初にあった自信がなくなっていました。どん底に落ちていた私は、いつしか日本と学校の友達と疎遠になっていきました。その時住んでいたアパートの契約が、もうすぐ切れそうになったとき、このまま中国に帰ろうかと考えたほどです。

しかし、友達を通じて、知り合った家族がホームステイとして、私を受け入れてくれることになり、もう少し頑張ろうという気持ちになりました。

一緒に住むことになって、いろいろなことに気を使う私に、ホームステイのお母さんが声をかけてくれました。「知らない国に来て、お母さんは頑張っている亜薇を見捨てられないし、これから、ここは自分の家のように使いなさい。」その言葉を聞いて、自分の親を思い出し、親切にしてくれるホームステイの家族に感謝





し、言葉に表せないほど感動し、胸が痛くなるほど気持ちが湧き出てきました。そのときから、私は初めて日本に近づきたいと思いました。

日本にいる間に、いろいろな問題があり、度重なる不幸に悩んでいる時に、ホームステイのお母さんはいつも自分のことのように心配し、アドバイスしてくれました。

付き合っていた彼と

別れるとき、自分の気持ちが整理できず、混乱状態に落ちたこともあります。「どうして生きているのか？自分のこれから的生活はどうなって行くのか？」と、不安だらけの毎日でした。そんな時も、お母さんはいろいろな話をしてくれ、私の気持ちを前向きに考えられるように、寝ずに朝まで話してくれました。私を気遣ってくれて、元気をもらいました。

「努力した自分を信じる強さをもつこと。何事も心から楽しむこと。前向きに生活していれば、いいことがきっとくる。自分で諦めたら終わりだからね。」

今でもお母さんの言葉をしっかりと覚えています。自分の人生の考え方が大きく変わりました。卒業したら、日本と離れる事になるかもしれません、ホームステイとそこでの出会いは一生忘れません。それは、私にとって人生でもっとも大切な宝だと思います。お母さんのおかげで自分自身を見つめなおすことが出来ました。

生きることは、いつになっても頑張りです。もういいやと思ったら、そこで終わりです。お母さんの言葉を思い出したとき、「さて、今日もやるぞ！」と希望が胸から溢れます。





チューター活動を終えて

群馬大学工学部1年

川 野 恒 平

「留学がしたい。」と思い学生センターに留学について問い合わせ、そこで国際交流課について知られ、まだ上ったこともない階段を上がり、たどり着いた先が国際交流課。そこで留学についての話を聞いているうちに、国際交流サークルbeyondの存在について聞かされ、交流室に踏み入れた。これが僕が国際交流サークルに入り、チューターをすることになったきっかけ。サークル紹介のイベントには参加しておらず、サークル紹介の冊子に載っていることも、後に友人に知らされて初めて知った。来年はもっと積極的にアピールしないと、と思うものの、もうすぐ桐生キャンパスに移る僕は、もう、ここにはいない。荒牧キャンパスに残る人には頑張って欲しいものだ。

サークルといつても特に具体的に何かをするというのではなく、基本的には交流室で留学生と話すというのが活動といえば活動。一応、活動日は水曜日としているようだが、曜日に関係なく来ることができる日は来るといった感じ。週末にはパーティーをしたり、休日には旅行に行ったり、文化祭では各国の料理などを出したりもした。留学生といつても日本語で会話するという上で、ほとんど困ることもなく、たまに知らない単語がある程度。さまざまな国について、いろいろなことを教えてもらえるし、こちらも日本のことについては教えてあげられるから、話していく楽しい気持ちもいい。

チューター活動もその延長といった感じで始めた。担当は台湾からの交換留学生。前期後期通じて1年間受け持った。先に述べたように会話において困ることはほとんどなかった。ただ会話をする上では、ほとんど困ることがないとはいっても、それを文章にするということになると、やはり事情が違う。会話では少々文法が間違っていたとしても聞いていれば意味は分かるが、文章ではどうしても違和感が出てくる。日本語独特のニュアンスや経験上の慣れでしか説明できないようなものもある。だからチューター活動はレポートや作文作成の手伝いや、あるいは、すでに書き終わったレポートの添削などが主。後期には日本語の文法や単語についての詳しい説明なども行った。普段何気なく使っている語彙を説明するのは難しい。チューター活動に電子辞書は必需品。僕は留学生の辞書を借りて使っていたけども…。あとは日本語で会話。生活上の悩みや疑問に答えたり、会話の中で出てくる知らない単語を教えてあげる。何気ない会話だったけど、1年経つとずいぶん日本語が流暢になったと思う。結果的には効果があったのかな。担当していた留学生は1年間の交換留学生だったのでもう帰ってしまった。日本の大学院に行きたいそうだが、なんとか頑張ってほしいものだ。

最後に本当に短い文になってしまうけど一言。「留学生のみんな、1年間ありがとう。」



ウズベキスタンと日本

群馬大学社会情報学部研究生

ムスリモワ デイリドーラ (ウズベキスタン)

私は、ウズベキスタンという若い国から留学生として日本に来た。ところが、わが国のことを見た日本人はあまり知らないということがわかった。したがって、少し自分の国と日本で一人暮らしをしている自分の感想を話したいと思う。

珍しい日本という国や日本文化を自分の目で見る夢を抱きつつ、子供のころからいつも日本に憧れていた私は、いつか、ぜひ日本に行くと決心した。子供の時からおじいさんが、自分の日本人の友達、日本について話し続けた結果、私はいつの間にか日本に興味を持って、日本語の勉強を始めた。そのとき、我が国と日本には、大きな共通点があることもわかり、さらに日本の魅力にとりつかれた。

私は今でも、日本に住んでいることが信じられない。日本に来たばかりのとき、私が予想していたとおり見るものすべてがきれいで、日本人も、とても親切であった。しかし食べ物は、全く違っていて、なかなか口に合わなかった。だが、生魚は今では食べられるようになった。以外においしいと感じる。

それに、来たばかりの印象は、日本の物価の高さだった。本当に、ウズベキスタンと比較すると、日常生活で使われている野菜や果物だけを見ても、「高いな」と考えてしまう。

ここに来ていくつかのことに驚いた。それは、日本の縁起だった。たとえば、どんなハイツでも204、209号室がないということに気づいた。そこで、聞いてみたら、四と九は日本人にとって不吉な番号だそうだ。というわけで、日本のさまざまことに驚いたり、感激したり、カルチャーショックを受けたりした。

世界の発展した国の一である日本という国では、全然問題などないと思っていた。ところが、国の発展にしたがって、さまざまな社会問題が発生するようだ。日本では、だんだん少子化が進んで、高齢化社会になってしまふのを解決できないのも残念だと思った。

さて、両国の共通点を言うと、世界地図を見れば、日本とウズベキスタンは、ほぼ同じ緯度にあるから、四季も日本と同じで、日本人は知らないと思うけれども、わが国でも桜と同じような花が咲く。日本とウズベキスタンとの距離は、けっこう離れていても、日本語とウズベク語の文法はとても似ているし、日本と同じごたつ、同じ形の茶碗、ほうじ茶と同じお茶などがあることを聞いた日本人はみんな驚く。

自分の国について言うと、ウズベキスタンは中央アジアに位置し、1991年に、ソ連から独立を達成した。人口の78%以上はウズベク人だが、ロシア人も、それ以外のさまざまな民族も住んでいる。母国語はウズベク語にもかかわらず、ロシアの影響でロシア語も広く使用されている。国民の9割がイスラム教徒である。ウズベキスタンは、高い生産力、豊富な労働力、



天然ガス、石油、金など、天然資源が基礎となっている。

ウズベキスタンは、昔シルクロードの中央に位置したおかげで、タシケント、サマルカンド、ブハラという歴史的でイスラム文明の伝統を伝える都市が多い。中央アジア最大の都市であるタシケントは、2000年前から存在する古都で、イスラム教本庁のメドレセやモスク、よく知られているナボイ劇場などのような建物がある。ここで注目をしてほしいのは、ナボイ劇場が、戦後、ロシアのシビルからウズベキスタンに移動させられた日本人の兵隊によって建設されたことだ。1966年、タシケントで大地震があったとき、その建物しか残っていなかった。私は、ぜひ、こうしたことを日本の人たちに知ってほしいと思う。

サマルカンドも、ローマ、ギリシャ、バビロンと同じぐらいの2750年の歴史があって、「東洋のローマ」と呼ばれている。2500年前より東西交通の要衝として、栄えたシルクロードの最重要都市であった。紀元前4世紀、アレクサンダー大王の遠征軍がこの地に到達し、「美しい町だ」と感嘆したと伝えられている。

ここではウズベキスタンについて少しだけ紹介した。日本での私の目的は、日本にウズベキスタンの文化や歴史などを紹介しつつ、ウズベキスタンと日本の交流関係がもっと深まるよう尽力を尽くすことだ。ウズベキスタンのことをせめて、一人の日本人に知ってもらえば、私の目的は達成されたといえるだろう。



県内高等教育機関の近況

◆関東学園大学

本学の外国人留学生は平成18年2月現在、学部生24名、大学院生1名、科目等履修生1名の計26名が在籍し、日々勉学に励んでいます。平成18年度入学より、受入れを一層推進しましたので、外国人留学生が若干増える見込みであり、それに向けて本学留学生交流の持ち味であるアットホームな雰囲気を保持しつつ、受入れ体制の強化、効率化を図っています。

◆共愛学園前橋国際大学

2006年3月現在、留学生在籍者数は68名です。中国、韓国、タイ、トルコ、バングラデッシュ、スリランカの6カ国の学生たちが日々勉学に励んでいます。今年度の文化祭では多国籍料理が並び、普段は食べられないような料理を口にすることが出来ました。また留学生旅行では日光方面に大型バス2台で大勢の留学生とチューター学生が参加し、とても楽しい旅行をすることが出来ました。最近では地域の小学校へ総合学習授業に招かれ、「国際理解」と題し、母国紹介をして小学生たちと交流深める活動を行いました。

◆群馬大学

本学では、平成18年2月現在、31か国1地域から287名の留学生が在籍しています。

県内の小学校で出身国の紹介等を行う「国際理解講座」に多くの留学生が積極的に参加し、地域の子供達との交流を深めています。また、国際交流協定締結大学は、17年度33大学あり、最近ではコロンビア、ニカラグア等国際協力のできる大学との締結を推進しています。

◆群馬県立女子大学

現在、中国から5名、韓国から3名、台湾から1名、アメリカ合衆国から1名、計10名の留学生が在籍しています。少人数ですが、それぞれが専攻している分野で意欲的に学習に取り組んでいます。本学では、平成18年4月から「国際交流俱楽部」というサークルを立ち上げ、学内だけでなく、他大学の留学生との交流や、地域の国際交流活動など積極的に行っていく予定です。

◆群馬工業高等専門学校

平成18年2月現在、4学科の3~5年次に9名（イラン、スリランカ、バングラデシュ、マレーシア）の留学生が在籍しており、18年4月には新たに3名の留学生（マレーシア、モンゴル）の入学を予定しています。この1年の取組みとして、県内留学生弁論大会、近隣小学校スポーツ大会へのボランティア、国際交旅行事等に積極的に参加するとともに、本校の寮祭、工華祭に自國紹介としての留学生コーナーを開設し、地域との交流に関わりました。また、ホームステイ、国内旅行にも積極的に参加し、日本の文化を理解することに努めました。さらに勉学にも熱心に励んでおり、5年次生3名は大学3年次への編入学試験に合格し、後輩への良き模範となりました。

◆群馬松嶺福祉短期大学

本学は、友好関係にある中国・上海職工医学院附衛生学校より、毎年3名前後の留学生を受けて入れています。今年度は2名の女子が入学し、現在中国より6名と韓国より1名の計7名が在学しています。学内の交流事業として日本の文化を体験することを目的に、和紙の手作り体験を実施しました。留学生のほぼ全員が卒業後に日本の4年生大学に進学しますが、そのサポートにも努力しています。

◆上武大学

2003年の「日中友好会」の発足以来、この会のメンバーである留学生たちは大学の各種の行事に積極的に参加しています。特に文化祭（雑草祭）では中国料理の売店を出して、日本人学生や地域の人々との交流を図っています。またさまざまなスピーチコンテストに参加し優秀な成績を残しています。伊勢崎市の第6回「国際交流の集い」（10月30日）には数名ずつの留学生と日本人学生が参加し、書道等を通して地域の人々と交流を行いました。3月12日には第2回「国際交流綱引き大会」（伊勢崎市、糸の郷）に11名の留学生が参加する予定です。

◆高崎経済大学

本学には2月現在、学部・大学院あわせて216名の留学生が在籍しています。国籍は中国が9割以上で、以下台湾、韓国となっています。秋の大学祭（三扇祭）では、留学生交流会の模擬店で、手作りの餃子やチヂミが毎年大好評で、売り切れてしまうほどです。今年は11月2日から5日までの期間で行われる予定ですので、ぜひ本場の味を味わいにいらしてください。

◆創造学園大学

創造学園大学では、創造芸術学部28名（音楽学科9名、芸術学科19名）、ソーシャルワーク学部6名、計34名の中国、マレーシア、ガーナからの留学生が在学しています。一方、日本学生支援機構の短期留学推進制度により、カンボジアのプノンペン大学に本学の日本人学生が6カ月間留学し、派遣・受入の双方で国際交流を行っています。

◆高崎商科大学

本学の留学生の在籍数は、大学12名、短期大学部3名です。

今年度は「留学生懇談会」を前期と後期各1回行い、学生生活について語り合いました。

◆東京福祉大学

本学社会福祉学部には、中国・韓国からの留学生が各1名ずつ計2名在籍しており、社会福祉の専門家になるため一生懸命勉強に励んでいます。両学生とも勉強熱心であるため、大学の成績も優秀で、また日本語力も非常に優れています。

2004年4月より、留学生日本語別科を開設いたしました。主に、東京池袋にある学習センターでの講義を受講しております。日本語能力を本格的に身に付け、日本の大学に進学を希望している留学生のために、教育の機会を広げています。

◆東洋大学(板倉キャンパス)

板倉キャンパスには214名（学部生183名、大学院31名）の様々な国や地域の留学生が在籍しています。一方、タイへの海外国際地域学研修、語学セミナー等のプログラムを組み、受入・派遣双方の充実を図っています。また、英会話・中国語などの課外語学講座を近隣住民にも開放しています。地元の小中学校との交流会が年々増加し、今後もより地域に根ざした交流を目指すつもりです。

◆新島学園短期大学

本年度は、短期留学として西オーストラリア大学、スタディ・ツアーとしてタイを実施した。この交流は開学以来20年余継続して来ている。3月25日から30日まで提携校のタイ、バンコク・ラジャダムナン専門学校から教員16名が来学され、交流を深める予定になっている。

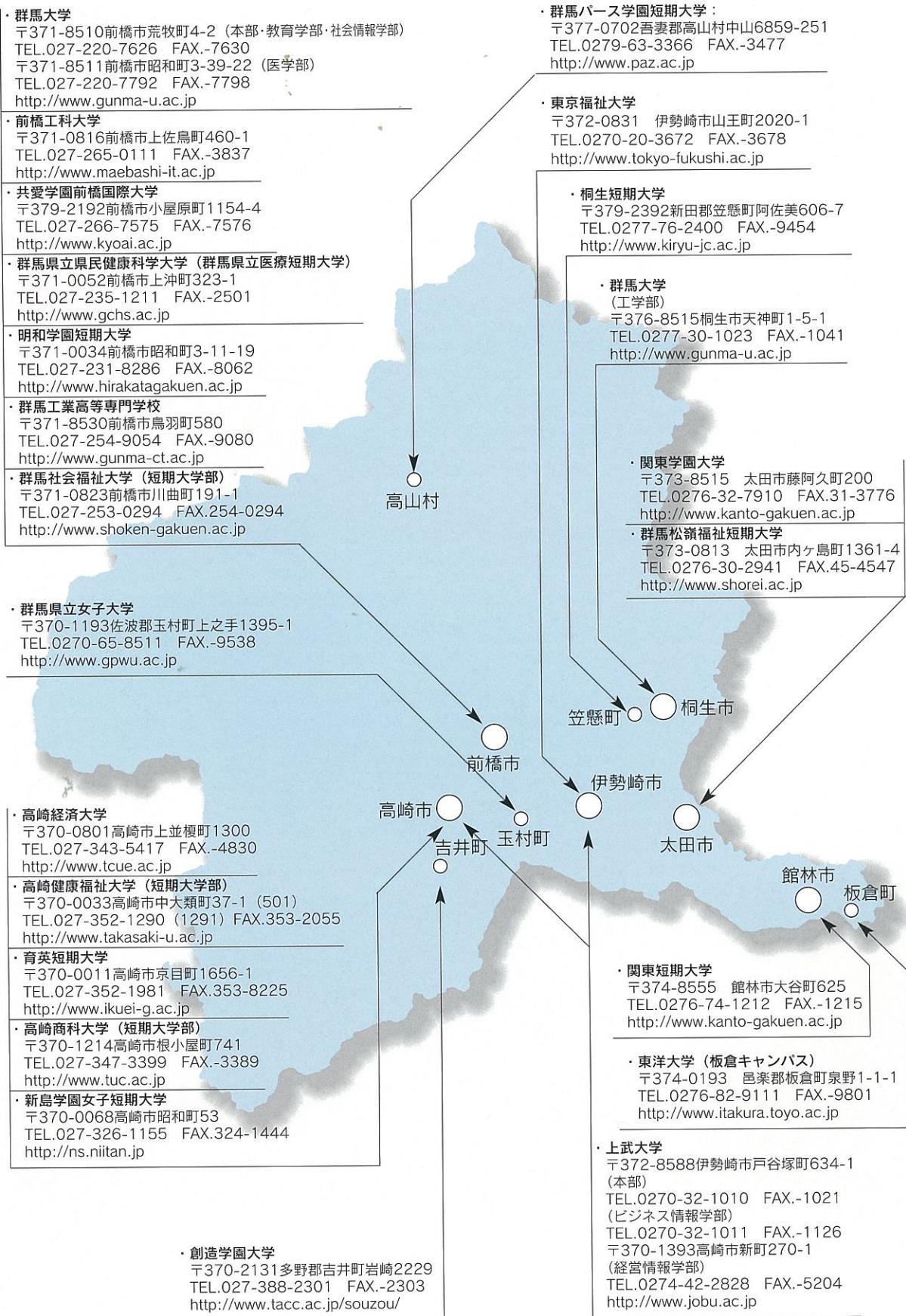
◆前橋工科大学

本学の留学生は中国9名（学部生5、大学院4）、韓国1名（学部生）の計10名です。

少人数のため特に交旅行事は設けていませんが、留学生同士の交流は自主的に行われています。国際交流については、地域研究開発センターが窓口となって、北京工業大学と協力と交流に関する協定を締結しています。

県内高等教育機関の所在地

名称は2006年4月1日現在



国際交流団体等18年度交流事業・支援事業(案)

団体名	事業名	実施時期	事業内容等
群馬県国際交流協会 財団法人	国際交流まつり	2006年10月下旬	群馬県民と在住外国人、外国人留学生との交流を通じ相互理解を図るため、NGO・NPO団体等や国際交流ボランティアと協働しながら毎年開催。
	リサイクル自転車支給事業	募集:2006年4月上旬 決定:4月下旬	外国人留学生の生活支援と放置自転車の有効利用を目的として再整備した放置自転車を希望する留学生に支給。
	在住外国人日本語学習支援	2006年6月頃	在住外国人の日本語学習支援を行うボランティアを養成するための講座を開講。
	外国語入門講座	2006年7月頃	群馬県民を対象に、他の市町村や公民館で未開講の言語の入門講座を開催。
	青年招へい事業・分野別地方プログラム（JICA委託事業）	2006年11月頃	将来の国造りを担う青年を我が国へ招へいし、それぞれの分野について学ぶとともに、ホームステイ等を通じ相互交流を深め、眞の友情と信頼を培うことを目的として実施。本年は中南米から初中等教育分野の青年を招へい。
	国際理解講座「アメニティーサロン・国際快適空間」	2006年12月頃	外国人留学生等を講師として、その國のお茶を飲みながら出身国の文化、風習、簡単な挨拶などを学ぶ国際理解講座。
前橋市国際交流協会	日本語教室（夜）	一期12回・年3期	日本語学習支援ボランティアによるグループレッスン。
	日本語少人数レッスン（午前）	一期10回・年3期	日本語学習支援ボランティアによる個人レッスン。
	日本語ひろば	毎月第2、第4金曜日	市民と外国人によるフリートーク。
	留学生協力家庭の提供	2006年4月、10月頃	宿泊は伴わないが前橋在住の留学生と月1回程度の交流を行う。
	エスニック料理教室	年3～4回	在住外国人を講師に市民が異国料理に挑戦。
	国際交流パーティ	2006年12月中旬	外国人と一般市民及び会員との交流。
	外国人による日本語発表会	2006年11月12日（日）	前橋市を中心とした外国人の日本語によるスピーチと交流会。
伊勢崎市国際交流協会	国際理解講座（日本文化体験講座を含む）	年4～5回	それぞれの国の文化紹介と交流。
	姉妹都市提携20周年記念市民訪団受入	2006年10月4日（水）～10月8日（日）	姉妹都市スプリングフィールド市との姉妹都市提携20周年を記念し、同市より市民訪問団が本市を訪問する。
	第7回ソフトボール交流訪問団受入	2006年6月8日（木）～6月13日（火）	姉妹都市スプリングフィールド市よりソフトボールチームが訪問し、交流試合を行うことで、お互いの友好を深める。
	第10回学生訪問団受入	2006年6月23日（金）～6月28日（水）	姉妹都市スプリングフィールド市より高校生が訪問し、ホームステイを通して日本の文化を体験する。また、市内高校を訪問し高校生の交流を図る。
	第8回いせさきまつり参加使節団受入	2006年8月3日（木）～8月9日（水）	いせさきまつり参加のため姉妹都市スプリングフィールド市より参加使節団が訪問する。また、ホームステイを通して市民レベルでの交流を図る。
	第10回日本秋まつり参加使節団派遣	2006年9月6日（水）～9月13日（水）	姉妹都市スプリングフィールド市で行われる日本秋まつりに参加使節団を派遣し、日本文化を紹介する。また、ホームステイ体験をすることで市民レベルでの交流を図る。
	第20回姉妹友好都市学生派遣（中国馬鞍山市派遣）	2006年8月3日（木）～8月9日（水）	友好都市中国馬鞍山市へ中学生を派遣し、国際感覚の育成を図る。
	友好訪問団受入	年2～3回	友好都市中国馬鞍山市より訪問団が本市を訪問し、友好を図る。
	国際詩吟節参加使節団支援	2006年10月	友好都市中国馬鞍山市で行われる国際詩吟節に参加する使節団を支援する。
	国際理解バスタワー	2007年2月6日（火）	会員を対象にバスツアーを開催。国内で行われる外国文化を紹介した展示会等を視察研修する。
	国際交流のつどい	2006年10月29日（日）	市内在住外国人と地域住民の交流を図る。各国の歌やダンス、料理・物産の紹介、国際交流関係団体の活動紹介、くらしの相談及び講演会を行う。
	国際映画祭 in ISESAKI vol.3 開催事業	2007年1月25日（木）～1月26日（金）	会員を対象とした映画祭を開催。外国映画の紹介を行うことで、外国文化に触れる機会を提供する。
	外国人日本語スピーチコンテスト	2006年12月17日（日）	市内在住外国人のスピーチコンクールを開催。日本語学習の成果を発表する場とする。

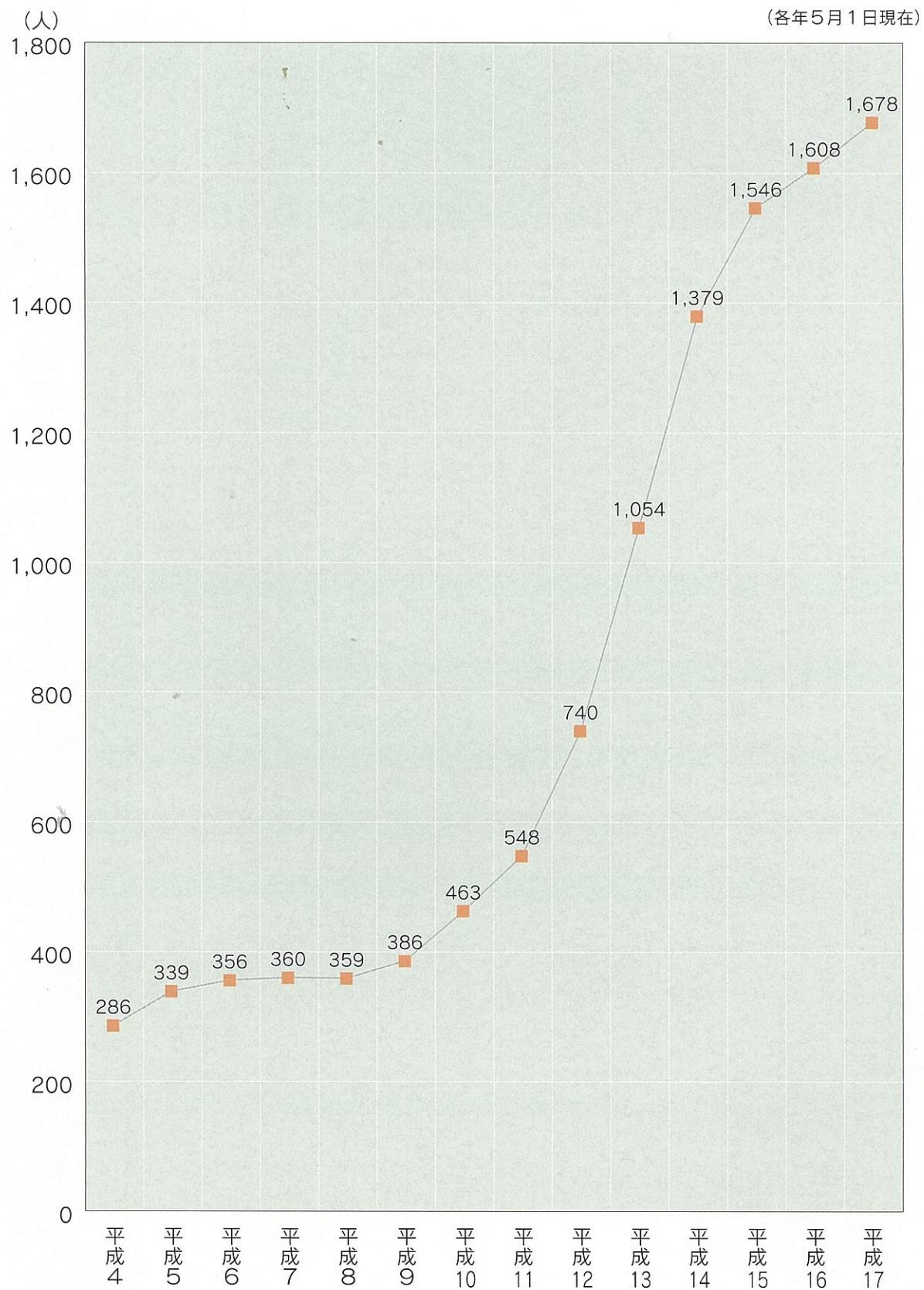
団体名	事業名	実施時期	事業内容等
高崎市国際交流協会	ドイツ流グリルパーティー	2006年5月21日（日）	サッカーワールドカップの開催にちなみ、ドイツスタイルのバーベキュー交流会を開催。（かみつけの里博物館、定員150名）
	第16回国際交流の集い	2006年10月28日（土）	海外の料理やステージを楽しむ屋外イベント。今年度は姉妹友好都市5都市からのゲストを迎え、これらの国にちなんだ内容にする予定。
	ニューイヤー・パーティー 2007	2007年1月中旬頃	ライブバンドを招いてのダンスタイムや誰でも参加できるゲーム、ビールなどの飲み物をたくさん用意。
	国際交流バスツアー	2007年2月～3月頃	在住外国人との交流を目的としたバスツアー。（平成17年度は、「尾瀬」と「富士山」の2ツアーを実施した。）
	外国人のための日本語教室	春、秋、冬3期実施 (各10回)	受講者のレベルに合わせた日本語のグループレッスン。市内公民館を会場に開催。
	海外料理教室	毎月開催	海外出身者を講師に迎え、各国の料理を紹介する。（全14回を予定）講師希望者も随時受付中。
桐生市国際交流協会	アメリカ・コロンバス市民受入事業	2006年7月下旬～8月上旬	国際姉妹都市であるアメリカ合衆国ジョージア州コロンバス市の市民訪問団を受け入れる。
	イタリア・ピエラ市との青少年交流	2006年8月中旬～下旬	国際姉妹都市イタリア共和国ピエラ市に桐生市高校生を派遣。ホームステイを通じて交流を深める。
	日本フルブライトメモリアル基金米国教育者一行の受入	2006年11月20日（月）～11月27日（月）	日米教育委員会日本フルブライトメモリアル基金が招へいする米国教育者20名を受け入れ、教育現場視察、児童・生徒・教員・保護者との意見交換を行い、両国の教育交流を促進する。
	日本語大冒険	一期10回・年3期	外国人を対象とした日本語教室。
	中学生英会話研修	2006年11月 (2泊3日)	英語研修施設「British Hills」(福島県)に宿泊し、英語漬けの環境の中、英会話能力の向上と異文化理解を深める。
館林市国際交流協会	国際交流まつり	2006年10月29日（日）	在住外国人と地域の人々、会員による「食と文化交流」のイベント。毎回一万人以上の人出で賑わう。
	日本語教室	毎週月/火曜日 午前 毎週木曜日 夜	外国人及び帰国子女等を対象とした日本語教室を実施。
	外国人相談	通年 毎週火曜日12～15時	中国語・スペイン語・ポルトガル語・ハングル語・英語による外国人相談を市庁舎で実施。
	外国語講座	未定 市広報等で募集	中国語・ハングル語・英語等を開講予定。
	世界料理講座	未定 市広報等で募集	在住外国人を講師に迎え、各国の料理作りを通して交流を図る。
	日本語発表会	未定 市広報等で募集	在住外国人等を対象に日頃、思うことなどを日本語で発表。表彰後、懇親会を行い、交流を図る。
玉村町国際交流協会	ふれあいの場づくり事業	2006年11月下旬	「玉村町産業祭」で外国料理を販売。
	機関誌発行	2007年3月頃	機関誌「エモーション」を発行する。協会の活動内容の紹介、ボランティアの募集など。
	語学講座 (英会話教室・日本語教室)	随時・通年	ALTによる英会話教室。日本語ボランティアによる日本語教室の実施。
	外国料理の講習会	未定	住民を対象とする外国料理の作り方教室。
	オールナイトキャンプ	2005年8月～9月頃	いろいろな国からきている留学生と日本人スタッフが本音で語るキャンプ。県内。
ギフォスの会	スタディツア（第3回）	2006年8月 2007年1月	カンボジアの留学生とともにカンボジア現地の学校、ストリートナルドレンの視察を1～2週間。
	アジアの子供展 (世界のなかま展)	2006年9月～10月頃	アジアの子供の写真、絵、活動の展示とその国の留学生による話。カンボジア、ラオスで学校を建てることも目的に。邑楽郡で開催。
	ギフォスの着物フェスティバル	2006年11月頃	留学生を中心に在住外国人が国の家族に日本での生活ぶりを報告するきっかけになればと、「着物姿の写真を撮って故郷に送ろうよ」という活動を続けて17年目。群馬会館で。

群馬県内高等教育機関外国人留学生在籍者数（国・地域別）

(平成17年12月1日現在)

機 関 名		群 馬 大 学	群 馬 県 立 女 子 大 学	高 崎 經 済 大 学	前 橋 工 科 大 学	関 東 大 学	共 愛 學 園 前 橋 國 際 大 学	上 武 大 学	高 崎 商 科 大 学	東 京 福 祉 大 学	創 造 學 園 大 学	東 洋 大 學 板 倉 キ ャ ン パ ス	育 英 短 期 大 学	群 馬 松 嶺 福 祉 短 期 大 学	高 崎 芸 術 短 期 大 学	高 崎 商 科 大 學 部	新 島 學 園 短 期 大 學	群 馬 工 業 高 等 專 門 學 校	合 計	
国・地域名																				
		101 パキスタン						1										1	パキスタン	
		103 ネパール	3									1						4	ネパール	
		104 バングラデシュ	4					1		1		4						6	バングラデシュ	
		105 スリランカ		1			1	1										8	スリランカ	
		106 ミャンマー											1					1	ミャンマー	
ア ジ ア	107 タイ	1					2											4	タイ	
	108 マレーシア	52	3				2	1			3						67	マレーシア		
ア ジ ア	110 インドネシア	13	1														14	インドネシア		
	112 香港											1					1	香港		
ア ジ ア	113 韓国	19	3	4	1	5	1	8		1	19	1	1				63	韓国		
	114 モンゴル	7	1					1			1						9	モンゴル		
ア ジ ア	115 ベトナム	2	1														4	ベトナム		
	116 中国	144	5	212	9	20	63	623	11	164	33	171		6	4	3	15	1483	中国	
ア ジ ア	117 カンボジア	1															1	カンボジア		
	118 ブータン	1															1	ブータン		
ア ジ ア	122 台湾	11	1	7				1			6						26	台湾		
	(小 計)	258	9	230	10	25	68	637	12	169	33	203	1	7	4	3	16	8	1693	14カ国1地域1行政区
中 近 東	201 イラン						1											2	イラン	
	202 トルコ	1					1										2	トルコ		
ア フ リ カ	213 イエメン	1															1	イエメン		
	(小 計)	2	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	5	3カ国	
ア フ リ カ	301 エジプト	3						1										4	エジプト	
	304 チュニジア	2																2	チュニジア	
ア フ リ カ	311 ガーナ									1								1	ガーナ	
	(小 計)	5	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	7	3カ国	
大 洋 州	401 オーストラリア	1																1	オーストラリア	
	409 トンガ	1																1	トンガ	
北 米	(小 計)	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2カ国	
	501 カナダ	1																1	カナダ	
北 米	502 アメリカ合衆国	1	1															2	アメリカ合衆国	
	(小 計)	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	2カ国	
中 南 米	602 グアテマラ	1																1	グアテマラ	
	608 ブラジル										1							1	ブラジル	
中 南 米	609 パラグアイ										1							1	パラグアイ	
	613 ボリビア	1	1								1							3	ボリビア	
中 南 米	614 ペルー	2																2	ペルー	
	615 エクアドル	1																1	エクアドル	
中 南 米	616 コロンビア	1																1	コロンビア	
	617 ベネズエラ	1																1	ベネズエラ	
中 南 米	620 ジャマイカ	1																1	ジャマイカ	
	(小 計)	8	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	12	9カ国	
ヨ ー ロ ッ パ	707 英国	1																1	英國	
	715 イタリア	2																2	イタリア	
ヨ ー ロ ッ パ	721 ポーランド	1																1	ポーランド	
	734 ウズベキスタン	1																1	ウズベキスタン	
ヨ ー ロ ッ パ	738 スロベニア	1																1	スロベニア	
	752 キルギス										1							1	キルギス	
ヨ ー ロ ッ パ	(小 計)	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	7	6カ国	
	合 計	283	10	231	10	26	69	638	12	169	34	207	1	7	4	3	16	9	1729	39カ国1地域1行政区

群馬県内高等教育機関の留学生の推移



群馬県内高等教育機関外国人留学生在籍者数（在籍種別）

(平成17年12月1日現在)

区分	予備教育生	学部・短大・高専					大学院					合計	
		正規生	正規生			計	正規生		正規生				
			聽講・科目等履修生	研究生	その他		修士	博士	聽講・科目等履修生	研究生	その他		
群馬大学	1	116	15	33		164	61	50	3	4		118 283	
群馬県立女子大学		6	3			9	1					1 10	
高崎経済大学		170				170	41	5	1	14		61 231	
前橋工科大学		6				6	2	2				4 10	
関東学園大学		24				24	1		1			2 26	
共愛学園前橋国際大学		69				69						0 69	
上武大学		617				617	21					21 638	
高崎商科大学		12				12						0 12	
東京福祉大学		3			166	169						0 169	
創造学園大学		34				34						0 34	
東洋大学板倉キャンパス		176				176	27	4				31 207	
育英短期大学		1				1						0 1	
群馬松嶺福祉短期大学		7				7						0 7	
高崎芸術短期大学		4				4						0 4	
高崎商科大学短期大学部		3				3						0 3	
新島学園短期大学		16				16						0 16	
群馬工業高等専門学校		9				9						0 9	
合計		1	1273	18	33	166	1491	154	61	5	18	0 238 1729	

群馬県内高等教育機関外国人留学生在籍者数（経費種別）

(平成17年12月1日現在)

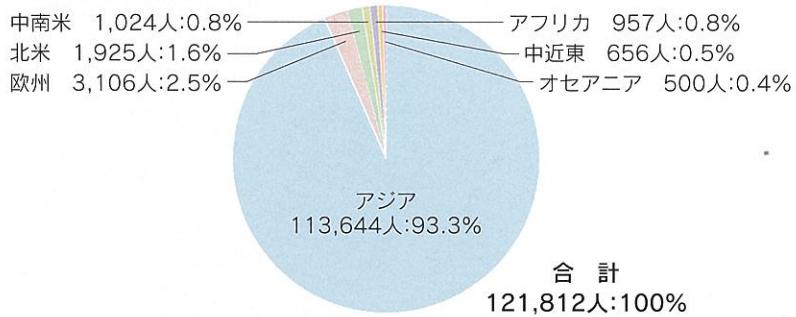
区分	国費留学生	日韓共同	理工系学部生	中国	政府派遣留学生	マレーシア	政府派遣留学生	インドネシア	政府派遣留学生	エジプト	政府派遣留学生	県費留学生	私費留学生	JICAの留学生	計	留学生協定に基づく内数
群馬大学	38	9				41							195		283	18
群馬県立女子大学													10		10	3
高崎経済大学		6											225		231	
前橋工科大学													10		10	
関東学園大学													26		26	
共愛学園前橋国際大学													69		69	
上武大学		5											633		638	
高崎商科大学													12		12	
東京福祉大学													169		169	
創造学園大学													34		34	
東洋大学板倉キャンパス		2											200	5	207	
育英短期大学													1		1	
群馬松嶺福祉短期大学													7		7	
高崎芸術短期大学													4		4	
高崎商科大学短期大学部													3		3	
新島学園短期大学													16		16	
群馬工業高等専門学校		3				6										9
合計	54	9	0			47	0	0	0				1614	5	1729	21

留学生関係基礎資料

1. 全国留学生数の推移 (毎年5月1日現在)



2. 全国出身地域別留学生数 (平成17年5月1日現在)

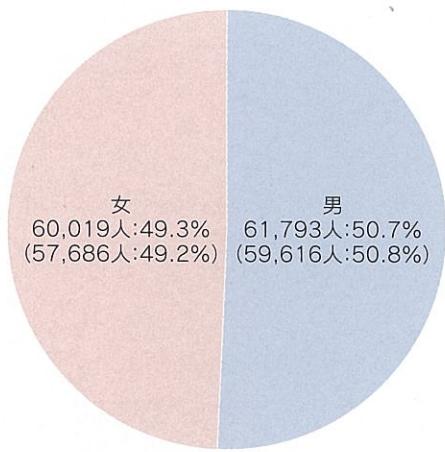


3. 全国出身国(地域)別留学生数 (平成17年5月1日現在、() 内は平成16年5月1日現在)

国(地域)名	留学生数	構成比	国(地域)名	留学生数	構成比
中國	80,592人 (77,713)	66.2% (66.3)	日本	346人 (366)	0.3% (0.3)
韓國	15,606人 (15,533)	12.8% (13.2)	ブルジル	338人 (330)	0.3% (0.3)
台灣	4,134人 (4,096)	3.4% (3.5)	ドイツ	336人 (315)	0.3% (0.3)
マレーシア	2,114人 (2,010)	1.7% (1.7)	イギリス	326人 (351)	0.3% (0.3)
ベトナム	1,745人 (1,570)	1.4% (1.3)	オーストラリア	300人 (348)	0.2% (0.3)
タイ	1,734人 (1,665)	1.4% (1.4)	カンボジア	298人 (283)	0.2% (0.2)
アメリカ	1,646人 (1,456)	1.4% (1.2)	カナダ	279人 (256)	0.2% (0.2)
インドネシア	1,488人 (1,451)	1.2% (1.2)	ラオス	266人 (263)	0.2% (0.2)
バングラデシュ	1,331人 (1,126)	1.1% (1.0)	イラン	235人 (227)	0.2% (0.2)
モンゴル	924人 (806)	0.8% (0.7)	エジプト	219人 (237)	0.2% (0.2)
スリランカ	907人 (764)	0.7% (0.7)	トルコ	164人 (157)	0.1% (0.1)
ミャンマー	651人 (591)	0.5% (0.5)	ブルガリア	145人 (128)	0.1% (0.1)
ネパール	617人 (462)	0.5% (0.4)	ウズベキスタン	139人 (127)	0.1% (0.1)
フィリピン	544人 (525)	0.4% (0.4)	メキシコ	137人 (133)	0.1% (0.1)
インド	410人 (327)	0.3% (0.3)	その他	3,461人 (3,347)	2.8% (2.9)
フランス	380人 (339)	0.3% (0.3)	計	121,812人 (117,302)	100.0% (100.0)

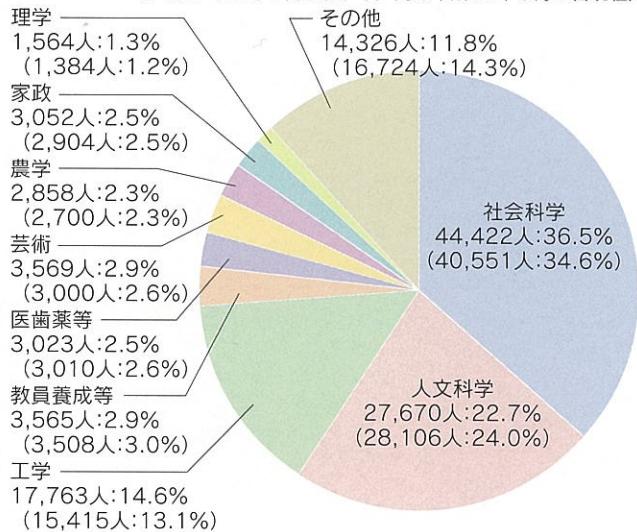
4. 全国男女別留学生数

(平成17年5月1日現在、() 内は平成16年5月1日現在)



5. 全国専攻分野別留学生数

(平成17年5月1日現在、() 内は平成16年5月1日現在)

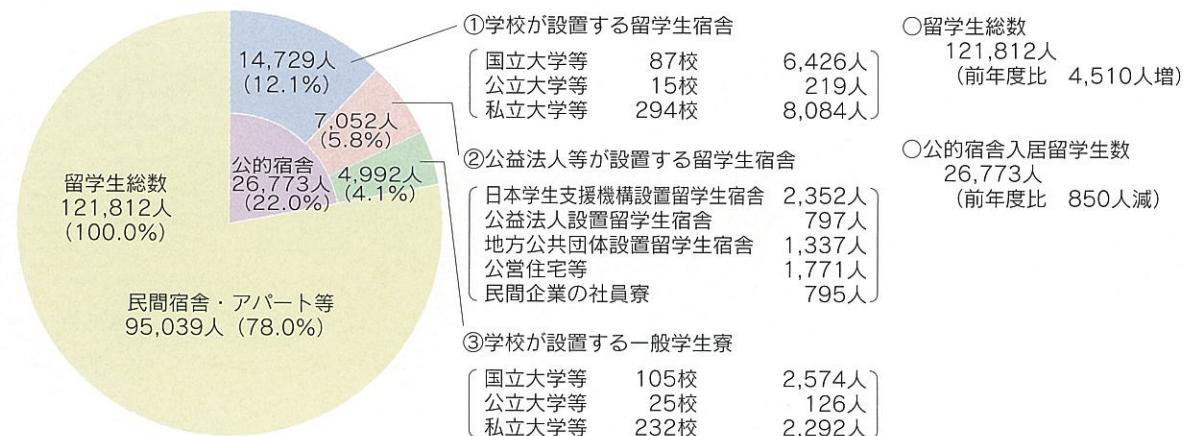


○留学生総数 117,302人 (109,508人)

6. 全国国公立別・在学段階別留学生数 (平成17年5月1日現在、() 内は16年5月1日現在)

		國 立		公 立		私 立		合 計	
		留学生数	構成比	留学生数	構成比	留学生数	構成比	留学生数	構成比
在 学 段 階	学 部	9,574人 (9,084)	15.7% (15.6)	1,384人 (1,406)	2.3% (2.4)	50,194人 (47,834)	82.1% (82.0)	61,152人 (58,324)	100.0% (100.0)
	大 学 院	19,333人 (19,518)	63.9% (66.1)	1,312人 (1,302)	4.3% (4.4)	9,633人 (8,694)	31.8% (29.5)	30,278人 (29,514)	100.0% (100.0)
	短 期 大 学	10人 (12)	0.3% (0.3)	26人 (51)	0.8% (1.5)	3,055人 (3,418)	98.8% (98.2)	3,091人 (3,481)	100.0% (100.0)
	高 等 専 門 学 校	450人 (422)	84.7% (83.4)	0人 (0)	0.0% (0.0)	81人 (84)	15.3% (16.6)	531人 (506)	100.0% (100.0)
	専 修 学 校	0人 (0)	0.0% (0.0)	26人 (35)	0.1% (0.1)	25,171人 (23,798)	99.9% (99.9)	25,197人 (23,833)	100.0% (100.0)
	準 備 教 育 機 間	0人 (0)	0.0% (0.0)	0人 (0)	0.0% (0.0)	1,563人 (1,644)	100.0% (100.0)	1,563人 (1,644)	100.0% (100.0)
	合 計	29,367人 (29,036)	24.1% (24.8)	2,748人 (2,794)	2.3% (2.4)	89,697人 (85,472)	73.6% (72.9)	121,812人 (117,302)	100.0% (100.0)

7. 留学生の宿舎の状況 (平成17年5月1日現在)



8. 地方別・都道府県別留学生数 (平成17年5月1日現在、() 内は16年5月1日現在)

地方名	留学生数	都道府県	留学生数	地方名	留学生数	都道府県	留学生数
北海道	1,903人：1.6% (1,957人：1.7%)	北海道	1,903 (1,957)	近畿	21,611人：17.7% (20,375人：17.4%)	三重	842 (812)
東北	3,382人：2.8% (3,168人：2.7%)	青森	401 (424)			滋賀	366 (399)
		岩手	330 (261)			京都	4,890 (4,734)
		宮城	2,018 (1,805)			大阪	10,496 (9,728)
		秋田	136 (125)			兵庫	3,967 (3,752)
		山形	208 (223)			奈良	869 (835)
		福島	289 (330)			和歌山	181 (175)
		茨城	2,828 (2,872)			鳥取	211 (211)
関東	62,263人：51.1% (59,585人：50.8%)	栃木	1,506 (1,401)			島根	171 (175)
		群馬	1,421 (1,457)			岡山	1,663 (1,727)
		埼玉	5,932 (5,353)			広島	2,001 (1,991)
		千葉	5,832 (5,828)			山口	835 (906)
		東京	40,396 (38,041)			徳島	345 (336)
		神奈川	4,348 (4,633)			香川	339 (512)
		新潟	1,452 (1,596)			愛媛	542 (628)
中部	14,237人：11.7% (13,876人：11.8%)	富山	513 (487)			高知	213 (223)
		石川	1,271 (1,138)	四国	1,439人：1.2% (1,699人：1.4%)	福岡	5,731 (5,466)
		福井	277 (285)			佐賀	316 (299)
		山梨	695 (670)			長崎	1,238 (1,182)
		長野	823 (663)			熊本	627 (608)
		岐阜	1,609 (1,625)			大分	2,867 (2,726)
		静岡	1,583 (1,440)			宮崎	218 (241)
		愛知	6,014 (5,972)			鹿児島	549 (562)
						沖縄	550 (548)
				計	121,812人：100.0% (117,302人：100.0%)		

推進協議会事業概要・関係資料

平成17年度事業報告

1. 留学生関連の情報交換に関すること

(1) 会誌「AKAGI」の発行（予定）

・発行日 平成18年3月（第16号）

・発行部数 1,500部

2. 留学生と地域社会との交流の促進に関すること

(1) 各種交流行事への参加（主なもの）

① 國際交流まつり（財団法人群馬県國際交流協会主催）

平成17年10月16日（日） 県民広場

② 着物フェスティバル（GIFOSの会主催）

平成17年10月30日（日） 群馬会館

③ 外国人による日本語発表会（前橋市国際交流協会主催）

平成17年11月13日（日） 群馬会館

3. その他

(1) 運営委員会の開催

・平成17年7月22日（金） 群馬大学荒牧キャンパス

(2) 定例総会及び外国人留学生と群馬県民との交流会の開催

・平成18年1月24日（火） 群馬大学荒牧キャンパス

平成18年度事業計画（案）

1. 留学生関連の情報交換に関すること

会誌「AKAGI」の発行

2. 留学生の地域交流・教育交流の促進に関すること

関係団体等が実施する事業への後援・協力

① 地域フェスティバル、県内各種国際交流行事（「国際交流まつり」）、見学会等の参加・後援

② 小中学校・各種団体主催「国際理解講座」等への留学生講師派遣

③ 地域フォーラム、セミナー、シンポジウム、スピーチコンテスト等への開催協力

3. 留学生の生活環境の整備に関すること

長期・短期ホストファミリー、協力家庭等との連携

① 地域の各種団体等との連携・広報の実施

4. その他

(1) 運営委員会の開催

(2) 定例総会の開催

群馬県留学生交流推進協議会要項

(名 称)

第1 本会は、群馬県留学生交流推進協議会(以下「協議会」という。)と称する。

(目 的)

第2 協議会は、群馬県における留学生の円滑な受入れの促進及び留学生と地域住民との交流活動を推進することを目的とする。

(定 義)

第3 この要項において留学生とは、教育・研究指導を受ける目的で入国し、群馬県内の高等教育機関に在学する外国人をいう。

(協議事項)

第4 協議会は、第2に規定する目的を達成するため、次の各号に掲げる事項について協議する。

- (1) 留学生と地域社会との交流の促進に関すること。
- (2) 留学生的学習条件の整備に関すること。
- (3) 留学生的生活条件の整備に関すること。
- (4) その他協議会の目的達成に必要な事項に関すること。

(組 織)

第5 協議会は、群馬県における留学生の受入れに係る関係機関等の長又は代表者を会員として組織する。

(役 員)

第6 協議会に、次の役員を置く。

- (1) 会 長 1人
- (2) 副会長 2人

2 会長は、群馬大学長をもって充て、副会長は、総会の議を経て会長が委嘱する。

(役員の職務)

第7 会長は、協議会を代表し、会務を統括する。

2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、あらかじめ会長が定める順位に従って会長の職務を代行する。

(顧 問)

第8 協議会に、目的達成に必要な助言及び協力を求めるため、顧問を置くことができる。

2 顧問は、会長が委嘱する。

(総 会)

第9 協議会は、年1回定期総会を開催するほか、必要に応じて臨時に開くことができる。

2 会長は、総会を召集し、その議長となる。

(運営委員会)

第10 協議会の円滑な運営を図るため、群馬県留学生交流推進協議会運営委員会(以下「運営委員会」という。)を置く。

2 運営委員会に関する必要な事項は、別に定める。

(事 務)

第11 協議会の事務は、群馬大学研究推進部国際交流課において処理する。

(雜 則)

第12 この要項に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この要項は、平成2年12月12日から施行する。

附 則

この要項は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成17年4月1日から施行する。

◎ 群馬県留学生交流推進協議会運営委員会要項 ◎

(趣 旨)

第1 この要項は、群馬県留学生交流推進協議会要項（以下「協議会要項」という。）第10の第2項の規定に基づき、群馬県留学生交流推進協議会運営委員会（以下「運営委員会」という。）に関し必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2 運営委員会は、協議会要項第4に規定する事項の具体的な事項について審議する。

(組 織)

第3 運営委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織し、群馬県留学生交流推進協議会会長が委嘱する。

(1) 協議会要項第5に規定する機関等から選出された者 若干人

(2) 群馬大学副学長

(3) その他の運営委員会が必要と認めた者 若干人

2 前項第1号及び第3号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第4 運営委員会に委員長を置き、群馬大学副学長をもって充てる。

2 委員長は、運営委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故あるときは、あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代行する。

(委員長以外の者の出席)

第5 委員長が必要と認めたときは、会議に委員以外の者の出席を求め、その意見を聞くことができる。

(事 務)

第6 運営委員会の事務は群馬大学研究推進部国際交流課において処理する。

(雑 則)

第7 この要項に定めるもののほか、運営委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この要項は、平成2年12月12日から施行する。

2 この要項施行後、最初に委嘱される第3の第1項第1号及び第3号の委員の任期は、第3の第2項の規定にかかわらず、平成4年3月31日までとする。

附 則

この要項は、平成12年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成17年4月1日から施行する。